

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[11]年、階級[消防副士長]、同様の活動[1年に数度]、任務[機関員]
○当事者B	年齢[27]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防士]、同様の活動[過去に1,2回程]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[35]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士長]、同様の活動[]、任務[その他：副分隊長]
その他 (当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢32歳 勤続9年 現場経験9年 階級消防士 同様の活動1年に数度 任務機関員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A B C D	救助大会訓練を実施	
経過2	A B C D	救助大会訓練終了	
経過3	A B C D	人てい訓練を開始	
経過4	B	バランスを崩し落下, 着地時に左足の膝を負傷	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。指揮者が適切に指示しなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：隊員が無理をしているのを見抜けなかった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

- 1 訓練を連続で続けず，適宜休憩をとり，その都度隊員の体調について申告させる。
- 2 隊員が無理をしない環境をつくる。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

- 1 高所での訓練を実施する場合は安全マットを配置する。

○指揮・情報伝達の対策について